

塩野義製薬株式会社 御中

ケニア共和国  
Mother to Mother SHIONOGI プロジェクト第2期  
(キリフィ県ガンゼ準県)  
第2年次 中間報告書

2021年11月30日

(報告対象期間：2021年4月～2021年9月)

---

特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F  
TEL: 03-5334-5350 FAX: 03-5334-5359  
URL: <http://www.worldvision.jp>

## 1. 支援事業概要

事業名：	Mother to Mother SHIONOGI プロジェクト第2期
事業地：	ケニア共和国 キリフィ県ガンゼ準県 バンバ地域およびジャリブニ地域 英語表記：Bamba Ward and Jaribuni Ward, Ganze Sub-County, Kilifi County, Republic of Kenya
事業期間：	2021年4月～2022年3月（事業2年目）
対象人口：	直接受益者：28,196人（うち15～49歳の女性14,788人、5歳未満児13,408人） 間接受益者：49,310人
年間予算：	70,596,615円（第1年次の未執行額10,596,615円含む。）
事業目標：	妊産婦・授乳婦および5歳未満児の健康を改善する
活動目的：	コミュニティにおける母子保健サービスの質およびアクセスを向上させるために、保健人材・システムの基盤整備を中心とした支援活動を実施し、住民の啓発と意識・行動変容および行政との連携強化を通して対象地域の子どもと妊産婦の健康状態の改善を目指します。

## 2. 支援事業の目的と内容

本事業の活動地域であるキリフィ県は、ケニア国内でも妊産婦死亡率が高い県の一つです。中でもガンゼ準県では、自宅から5km以内に保健施設がない人々は60%を超えており、保健サービスへのアクセスが制限されています。保健施設自体も機材および人材が不足しており、質の高いサービスを提供できていません。また、安全で清潔な水へのアクセスが限られており、多くの人々は雨水の溜池からしか水を手でくみ、その結果、下痢などの病気が蔓延し、加えてマラリアの罹患率も高くなっています。

事業地であるバンバ地域は、ケニア国内でも貧困率が最も高い地域の一つであり、早婚や子どもへの暴力、頻発する干ばつによる水・食料不足、清潔な水へのアクセス、HIVやマラリアなどの高い感染率、低識字率などの課題があります。特に、母子保健に関する各種指標は県内の他地域に比べて悪く、保健施設で分娩を行う妊産婦は約半数、5歳未満児のうち発育障害の症状が見られる子どもの割合も県平均より高い状況です。この背景には、保健施設の数と提供されるサービスの量・質が不十分で、保健施設、コミュニティ、行政の間の協力体制や連携が希薄であることが要因となっており、その結果コミュニティ住民内での保健・栄養に対する知識やサポートの不足に繋がっています。

2020年4月に開始したMother to Mother SHIONOGIプロジェクト第2期では、これらの一つ一つの課題に対して、母子保健サービスへのアクセス向上、コミュニティにおける栄養・水衛生環境の改善、保健システムマネジメントの強化という3つのアプローチを通じた活動を実施します。そして、行政を含む地域全体のコミュニティ保健システムを強化し、救える母子の命を救うことを目指しています。

### 3. 活動報告

#### 3-1 事業計画

本年度は第2年次として、第1年次と同じ支援対象地域において保健サービス提供のための基盤となるハード面の支援と、保健サービスの提供を担う人材育成やコミュニティの人々の保健や栄養に関する知識の向上に取り組みます。

	第1年次	第2年次	第3年次
	2020年4月～2021年3月	2021年4月～2022年3月	2022年4月～2023年3月
主な活動	保健人材・システムの基盤整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>ベースライン調査</li> <li>保健施設の整備(産科棟)</li> <li>医療従事者の基礎技術研修</li> <li>コミュニティ保健人材への研修</li> <li>アドボカシー・グループの立上げ、研修</li> </ul>	コミュニティ活動の強化・拡充 <ul style="list-style-type: none"> <li>保健施設の整備(産科棟・臨床検査室等)</li> <li>水供給施設の整備</li> <li>保健・栄養リフレッシュ研修</li> <li>コミュニティの保健・栄養活動のモニタリング・指導強化</li> </ul>	持続的な地域保健システムの確立 <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティの保健・栄養活動のモニタリング・指導体制の強化</li> <li>活動成果と課題の確認</li> <li>政府関係者との連携強化</li> </ul>

また、妊産婦・授乳婦および5歳未満児の持続的な健康改善を目指し、3つのアプローチを実施します。1つ目に、母子保健サービスへのアクセス向上を目指し、保健施設の整備、医療従事者の能力強化、そしてコミュニティ保健を担う村落保健員と Mother to Mother support group の結成・強化による予防啓発およびサービス受給促進活動を行います。また、保健施設のサービスの質を向上させるため、上位の保健施設および保健省から診療所スタッフへの定期的な連携・指導の体制を整え、さらに上位病院と診療所のリファールシステム(患者紹介システム)も強化します。2つ目は、ケニア国保健省が掲げる Baby-Friendly Community Initiative の取組みに従い、政府とコミュニティとの連携を強化し、母乳育児や微量栄養素の摂取、バランス食の普及などにより、栄養改善の取組みを強化します。また、栄養プログラムを実施、保健・栄養改善に必須となる清潔な水へのアクセス改善も行います。3つ目は、コミュニティ・アドボカシーのアプローチを活用し、コミュニティから政府へのボトム・アップの働きかけで、政府・コミュニティ一体となって問題解決ができる仕組みづくりを行います。

具体的な活動計画は以下の通りです。

【アウトカム1】妊産婦・授乳婦および5歳未満児の母子保健サービスへのアクセスが向上する	
1.1 保健施設において母子保健サービスのための設備が整う	産科棟の建設・増築 スタッフ宿舎の建設・修復 外来棟および臨床検査室の増築 機材および備品の整備
1.2 医療従事者の母子保健サービスの知識および技能が向上する	サポートイブ・スーパービジョン(県病院による診療所の訪問指導)の実施 巡回診療の実施 データマネジメント研修

1.3: コミュニティ保健人材が育成される	<p>村落保健員、保健普及員（村落保健員を指導）、コミュニティ保健委員会への研修</p> <p>村落保健員の月次会議の開催</p> <p>村落保健員に対する指導強化</p> <p>Mother to Mother support group (M2M グループ) の結成・活動</p> <p>コミュニティリーダーに対する研修</p>
【アウトカム2】 コミュニティの栄養・水衛生行動改善の仕組みが整備される	
2.1: コミュニティでの栄養改善の取組みが強化される	<p>コミュニティ栄養改善の研修実施</p> <p>M2M グループの栄養に関する知識の強化</p> <p>栄養キャンペーン実施支援</p> <p>農業支援（干ばつに強い作物の導入等）</p>
2.2: 急性栄養不良に対する栄養プログラムが強化される	<p>栄養プログラムの実施</p> <p>栄養プログラムの進捗確認会合の実施</p>
2.3: 水供給設備が改善される	<p>水供給施設の整備</p> <p>水パイプラインの接続</p>
2.4: コミュニティと学校において適切な衛生知識と行動が浸透する	<p>コミュニティでの衛生指導</p> <p>衛生施設建設の普及</p>
【アウトカム3】 保健システムマネジメントが強化される	
3.1: コミュニティと政府関係者間のパートナーシップが促進される	<p>アドボカシー・グループの活動</p> <p>政府・パートナーとの定期会合の実施</p>
3.2: モニタリング・評価が強化される	<p>中間評価・最終評価の実施</p>

3-2 活動項目ごとの進捗 報告対象期間：2021年4月1日～2021年9月30日（6カ月）

年間計画	実績	進捗状況
<b>支援活動：【1.1】保健施設において母子保健サービスのための設備が整う</b>		
リマラペラ診療所の産科室増設	産科室1室	リマラペラ診療所の産科施設の建設に関して、入札の手続きが完了し、建設会社に現地引き渡し完了しました。工期は約3か月を予定しており、事業期間内に工事の完了を予定しています。
リマ・ラ・ペラスタッフ宿舎の建設、及びミドイナ診療所のスタッフ宿舎の補完工事	スタッフ宿舎2棟	リマラペラ診療所のスタッフ宿舎の建設は40%まで完了しました。ミドイナ診療所のスタッフ宿舎は、コミュニティの要望を受けて地方政府が自己予算で建設される予定です。
各保健施設への機材の整備	機材一式	6月に、1年目に建設したミドイナとジャリブニの産科棟への機材を提供しました。
<b>支援活動：【1.2】医療従事者の母子保健サービスの知識および技能が向上する</b>		
サポーターティブ・スーパービジョンの実施	6月および9月計2回	<p>準県保健省の担当者および本事業スタッフが協働でミドイナ、リマラペラ、ジャリブニの各診療所を訪問し、施設の管理、サービス提供、医薬品を含む物資の在庫管理、報告・記録用の書類やデータの作成などについて実施状況の確認と指導を行いました。</p> <p>9月の訪問時に、ミドイナ診療所では母子保健に必要な医薬品の一部が在庫がなかったり、サービス状況の記録が不十分であることが判明しました。またリマラペラ診療所でも同様に、医薬品の一部が不足していました。これらは準県から調達可能なものであるため、診療所と準県の調達担当者同士ですぐに連絡を取り、調達を進めるよう指導が行われました。</p>
巡回診療	4月から毎月1回、合計6回	<p>本事業の活動拠点である3地域のそれぞれの保健施設から離れた遠隔地にそれぞれ2カ所ずつ、合計5カ所に巡回診療の拠点を設け、毎月の巡回診療を継続しました。ジャリブニ地域の1カ所は診療所が建設されたため訪問診療の対象地域から外しました。</p> <p>のべ3208人が予防接種、栄養状況のモニタリング、産前検診、治療などの医療サービスをうけることができました。</p>



	<p>の研修 毎月 実施</p>	<p>貯蓄グループが作られ、毎月、いくつかの貯蓄グループの活動をモニタリングしました。そこで明らかになった課題としては、10名程度の少ない参加数に留まっているグループがあること、本来必要なグループの登録が行われていないこと、同一人物が複数のグループに参加していること、参加している人たちの識字率の低さなどがあげられました。これらの課題を、毎月のモニタリングを通じて改善していきます。</p>
<p>村落保健員の月次会議 の開催</p>	<p>村落保健員と の月次会議 毎月実施</p> <p>村落保健員の 表彰制度 2回</p>	<p>事業期間を通じて7つの村落保健員のグループ、合計140名の村落保健員から活動状況のフィードバックを受け、また世帯訪問を行うことができるようフォローしました。村落保健員がサポートしている産前・産後健診や施設分娩の回数をグループ間で共有し、村落保健員が保健省と連携して行う予防接種のキャンペーンの実施推進などについて話し合いを行いました。</p> <p>また活動のモチベーションを高めるため、訪問回数やタイミングなどからパフォーマンスの良かった村落保健員に対して表彰とクーポンの提供を行いました。</p>
<p>村落保健員に対する指 導強化：</p>	<p>村落保健員の 世帯訪問の方 法指導2回</p>	<p>本活動は3地域の村落保健員に対して保健普及員（Community Health Extension Worker：CHEW）を通じて、3つの村落普及員のグループの活動状況を指導、モニタリングしました。村落保健員が抱える課題として、過去の研修に参加した保健員と参加できなかった保健員間の知識ギャップ、距離が遠すぎる世帯を訪問できないこと、トイレの建設と利用がコミュニティ全体に広がっていないこと、などが課題として挙げられました。</p> <p>また、村落保健員が活動報告に用いる保健省既定の報告用フォーマットの配布を行いました。</p>
<p>Mother to Mother support group (M2M グ ループ) の結成：</p>	<p>M2M グループ 間の情報共有 毎月1回</p>	<p>ミドイナ、ジャリブニ、リマラペラのM2MSGの月例会議の実施をサポートし、会議の中で保健普及員（CHEW）により母子及び子どもの栄養や産前検診に関する研修も実施されました。また、母親たちの間ではコミュニティ内の衛生施設の建設状況や家庭菜園の実施状況について情報共有が行われました。また、9月に改めて母子保健や栄養に関するリフレッシュ研修を実施しました。</p>

コミュニティリーダー に対する研修	研修 2 回	1 年目の研修のフォローアップとして、保健省と連携し、コミュニティ内で影響力を持つ男性 30 名に対して、若者の妊娠に関する問題、家族計画、避妊に関する誤った認識などを取り除くための研修を行い、男性がどのようにして家族計画に関する決定をサポートできるかについて学びました。コミュニティからは、家族計画の決定権は男性が持っているケースが多く、また子どもの栄養不良とその世帯の家族計画に関連があることが指摘されています。
<b>支援活動：【2.1】コミュニティでの栄養改善の取組みが強化される</b>		
コミュニティ栄養改善 の研修実施	保健施設スタッフへの研修、 MTMSG への栄養研修など  合計 4 回	本活動では、コミュニティ栄養改善の考え方をコミュニティ全体に浸透させるため、県職員、保健関係のスタッフ（保健施設スタッフ及び村落保健アシスタント）が中心となって、村落保健員、MTMSG、コミュニティリーダーたちに対して研修を行いました。  M2M サポートグループの母親に対して栄養に関する研修や地元の食材を使って栄養価のある料理を調理する実習を行いました。合計 227 名以上の母親たちが研修・調理実習に参加しました。
M2M グループの栄養に 関する知識の強化	M2M サポート グループへの 栄養に関する 研修 計 2 回	M2M サポートグループの定例ミーティングの一部として、ジャリブニのグループに対して食事の提供方法や食品群などコミュニティ栄養改善に関する知識の強化を行いました。また  また、リマラペラでは、Community Mother Support Group を立ち上げ、村落保健員、母親、診療所職員などが参加して、M2MSG の活動状況や保健施設の利用状況について議論を行いました。  (本活動は独立した活動ではなく、上記 1.3 のグループの結成、上記 2.1 の栄養改善研修の中で行われたものです。)
栄養キャンペーン実施 支援：	3 回	保健省と連携し、栄養や保健に関する以下のキャンペーンを実施しました。  ポリオキャンペーン（5 月）では、村落保健員やワクチン接種の担当官とともにポリオのワクチン接種の啓発を行い、ガンゼ準県内で合計 28,368 名の 5 歳未満児が予防接

		<p>種を受けました。</p> <p>Malezi Bora (7月)は前年から行われている政府による母子保健のキャンペーンに協力しました。バンバとジャリブニの両地域の5歳未満児がいる家庭を各戸訪問しました。11,814名にビタミンAを、また10,713名に駆虫剤の提供を行いました。</p> <p>World Breastfeeding week (8月)には、この事業でコミュニティ栄養改善の研修を受け、生後6カ月間母乳育児を実施した母親たちを表彰し、政府とともに母乳育児の啓発に努めました。</p>
農業支援（干ばつに強い作物の導入等）	毎月実施 計6回	<p>農業省と連携し、MTMSGに参加する母親に対して家庭菜園に関する研修を行い、また家庭菜園に必要な園芸作物の種子およびプラスチックの袋を提供しました。また今期間にも合計1000羽の鶏を提供し、農業省職員による鶏への予防接種が行われました。</p> <p>前期に提供された鶏の一部は鶏卵の生産を始めています。また、雨が少ない期間にも野菜を収穫できる変化が見え始めています。</p>
<b>支援活動：【2.2】急性栄養不良に対する栄養プログラムが強化される</b>		
栄養プログラムの実施	5回実施	<p>3つの地域において、5歳未満児の栄養状態を確認するスクリーニングを行い、急性栄養不良と診断された子どもたちを特定し、その子どもたちへの栄養改善プログラムを実施しました。2021年9月時点で合計38名の子どもたちが栄養不良の状態と診断され、外来を通じて栄養改善を行うプログラムに登録されています。</p> <p>(ミドイナ21名、リマラペラ11名、ジャリブニ6名)</p>
栄養プログラムの進捗確認会合の実施	会合 1回	<p>ジャリブニ及びミドイナの保健施設スタッフを招いて急性栄養不良の包括的な管理プログラムの進捗状況を確認する会合を1回行いました。</p> <p>また上腕周囲径を測って栄養状態を調べる大規模なスクリーニングを合計600名以上の5歳未満児に対して行いました。</p>
<b>支援活動：【2.3】水供給設備が改善される</b>		
水供給施設の整備	1基	<p>ミドイナとジャリブニに建設された給水タンクが適切に使用できる状態であるかどうかのモニタリングを行い、2021年9月に産科棟などと合わせて政府に引き渡されました。またリマラペラ診療所に給水タンクを建設中で、9月時点</p>

		で40%の進捗です。
水パイプラインの接続	1基	リマラペラ診療所の給水タンクと給水ポイントをつなぐパイプラインを建設中です。9月の時点で40%の進捗です。
<b>支援活動：【2.4】コミュニティと学校において適切な衛生知識と行動が浸透する</b>		
衛生施設建設の普及	研修 計4回	5月から8月にかけて、合計で14の村において、衛生行動の変容を促すトリガリング研修を実施しました。既にトイレがある世帯と無い世帯の確認、地域内の住居の位置や水源の把握などを行い、屋外排泄を行うことのリスクについてコミュニティと話し合いをしました。引き続き、研修を行った村においてトイレが建設され、人々の行動が変化していくかどうかをモニタリングしていきます。
<b>支援活動：【3.1】コミュニティと政府関係者間のパートナーシップが促進される</b>		
アドボカシー・グループの活動	4回	1年目に立ち上げたアドボカシー・グループの活動として、準県職員の現地訪問に合わせて既存の保健サービスのギャップや改善点について意見を伝える機会、県の保健省や県議会関係者に対して3つの診療所のハード面の改善点を伝える機会を設けました。
政府・パートナーとの定期会合の実施	6回	4月と5月には県の栄養調整会議に参加し、6月にはキリフィ島の今後5年間の母子保健戦略(2021-2026)のドラフト策定会議に参加しました。また7月にはMalezi Boraのレビュー会議にも参加し、キフィリ県や事業地の準県政府から保健・栄養分野における主要な関係者として関係構築ができています。 その他、M2Mグループの間でお互いの活動経験やレッスンを学びあう機会も設けました。
<b>支援活動：【3.2】モニタリング・評価が強化される</b>		
ベースライン調査・中間評価・最終評価の実施：	中間評価の準備	(中間評価は2021年12月の実施を計画しています。)

#### 4. 支援事業実施工程表(2021年9月時点進捗状況)

青：計画 オレンジ：実績

活動内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>アウトプット 1.1</b>												
産科棟の建設・増築												
スタッフ宿舎の建設・修復												
外来棟および臨床検査室の増築												
機材および備品の整備												
<b>アウトプット 1.2</b>												
医療従事者に対する知識・技術研修(2年目の活動なし)												
サポーター・スーパービジョンの実施												
巡回診療の実施												
データマネジメント研修												
<b>アウトプット 1.3</b>												
村落保健員、保健普及員、コミュニティ保健委員会への研修												
村落保健員の月次会議の実施												
村落保健員に対する指導強化												
Mother to Mother support group の結成・活動												
コミュニティリーダーに対する研修												
<b>アウトプット 2.1</b>												
コミュニティ栄養改善の研修実施												
医療従事者に対する栄養研修の実施(2年目の活動なし)												
M2M グループの栄養に関する知識の強化												
栄養キャンペーン実施支援												
農業支援(干ばつに強い作物の導入)												
<b>アウトプット 2.2</b>												
栄養プログラムに関する研修実施(2年目の活動なし)												
栄養プログラムの実施												
栄養プログラムの進捗確認会合の実施												
<b>アウトプット 2.3</b>												
水供給施設の整備												
水パイプラインの接続												



表 1：事業地の保健施設で保健サービスを受けた患者数（2021 年 4 月から 2021 年 9 月）

	ミドイナ 診療所	ジャリブニ 診療所	リマラペラ 診療所
来院者数	5704	17641	5583
妊産婦			
妊産婦の産前検診（4 回以上）の受診者数	93	79	27
専門技能者の解除による出産数/保健施設での分娩数	77	91	14
微量栄養素（鉄分、ヨウ素）のサプリメントを受け取った妊婦の数	449	600	180
家族計画の相談・指導を受けた妊産婦数	294	554	133
5 歳未満児			
予防接種完遂児数	109	85	65
中等度及び重度栄養失調の完治数	9	4	15
ビタミン A 欠乏症治療数	910	1743	777
発育阻害数（Stunting）	99	131	165
消耗少数（Wasting）	67	5	16
低体重数（Underweight）	138	183	218

表 2：巡回診療の利用者数（2021 年 4 月から 2021 年 9 月）

	ミドイナ 診療所	ジャリブニ 診療所	リマラペラ 診療所
予防接種	168	27	218
栄養に関する相談・治療	356	239	1187
家族計画に関する相談	23	34	21
産前検診	23	0	41
軽度の疾患に対する治療（5 歳未満）	104	53	241
軽度の疾患に対する治療（5 歳以上）	123	70	280

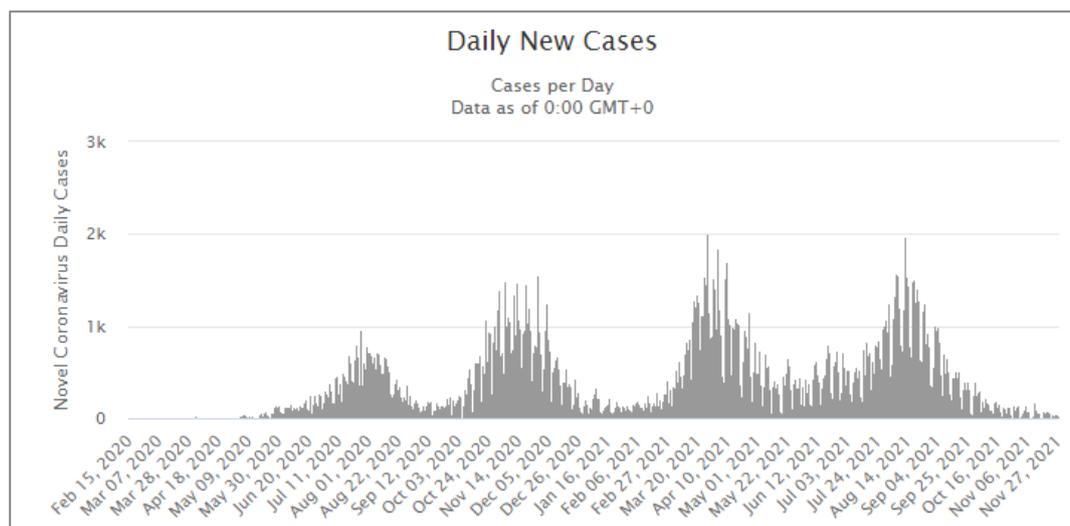
## 5. 第2年次後半の活動予定(2021年10月～2022年3月)

母子保健施設ならびに水供給施設の建設は2021年12月までに完成の見込みです。資材価格の高騰により建設予算の調整を行った検査室ですが、ミドイナ及びリマラペラ診療所の検査室は2年次の事業終了までに完成予定です。一方、ジャリブニ診療所の検査室は一旦調達を延期し、2021年9月末までの執行状況を踏まえて2年次の予算の一部を流用して建設することができるかどうかを検討いたします。

村落保健員、M2Mグループ、アドボカシーグループなどへの研修とコミュニティ内での活動に対する支援は、後半も継続して行います。こうした活動を着実に実施するうえでのリスクとして、現地での降水量の減少と干ばつの可能性があげられます。キフィリ県を含むケニアのいくつかの地域では降水量が長期にわたって減少しており、9月にはケニヤッタ大統領が干ばつによる国家的災害宣言を発令しました。こうした干ばつの状況が深刻化することにより、コミュニティの人々の衛生環境や栄養に対して悪影響が出る懸念されます。事業の活動を通じて、村落保健員や母親たちから干ばつの生活への影響を詳しく把握するように努めます。

もう一つのリスクは、新型コロナウイルスの感染拡大です。ケニアは9月下旬には第4波が収束し、1日当たりの感染者数は260人でした(2021年9月30日、ケニア保健省発表)。本報告時点では感染状況は落ち着いており学校も再開していますが、2回の接種が完了している成人の割合は3.3%に留まっています(9月29日、ケニア保健省発表)。検査体制が不十分なため地方での感染実態は分かりづらいところがありますが、第2年次の後半も引き続きCOVID-19対策ガイドラインを遵守し感染予防対策を十分に施しつつ、事業活動を実施していきます。

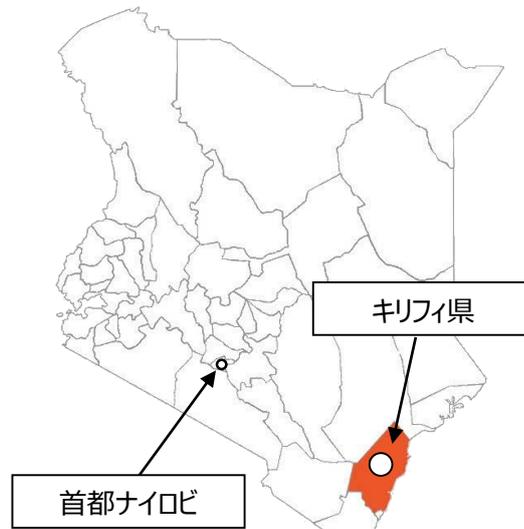
図2：ケニアにおける新規感染者数の推移



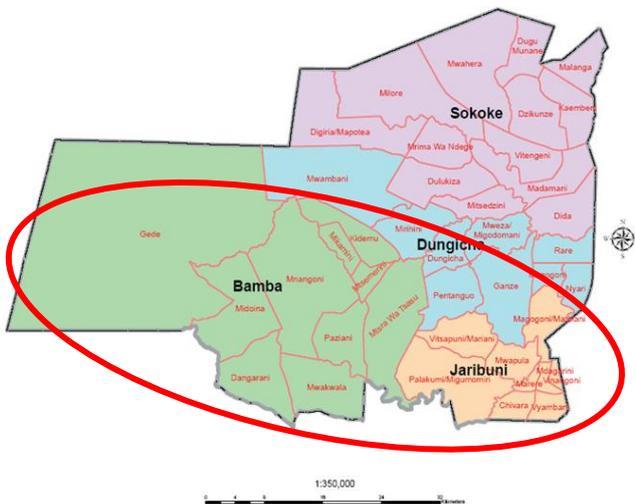
出典：<https://www.worldometers.info/coronavirus/country/kenya/#graph-deaths-daily>

【添付資料】

①支援対象地地図



ガンゼ準県



事業地はバンバ地域およびジャリブニ地域です

②進捗状況写真



ミドイナ診療所の水タンク



ミドイナ診療所のスタッフ宿舎



村落保健員への研修



M2M グループに対する栄養研修



巡回診療



栄養のスクリーニング



家庭菜園



衛生施設建設のトリガリング研修



サポーターティブ・スーパービジョン



CVA グループと県職員との面談

以上